

第1章 河南町

河南町の地形は、金剛山地と河南台地に大きく分けられます。

河南町の山側は、ほぼ葛城山地に占められ、南北に連なる山の西側には丘陵地が派生します。

山地と丘陵地の間には狭い谷が入り込んでおり、丘陵の西側には段丘が形成されています。

河南台地は、石川の支流である梅川と千早川に挟まれた河岸段丘で、その上部は広い平坦面となり町の中心部となっています。

河南台地の東側、梅川の支流域には段丘が発達し、葛城山地との間に狭い谷の入り組んだ複雑な段丘面が広がります。

今回紹介する遺跡では、山城廃寺が河南台地北部に、石塚古墳群が南部に分布します。

また、東山遺跡は河南台地の北東、梅川を挟んだ段丘と丘陵にまたがって位置します。

町内の遺跡の分布は、葛城山地西側の丘陵地と河南台地、および千早川を挟んだ西側の台地に大きく分かれます。

代表的な遺跡では、山地側に一須賀古墳群や加納古墳群、平石古墳群などの古墳群が、河南台地上に、弥生時代の高地性集落、および古墳時代の集落である神山遺跡が、千早川西の段丘にも、同じく高地性集落の寛弘寺遺跡、また寛弘寺古墳群が位置します。